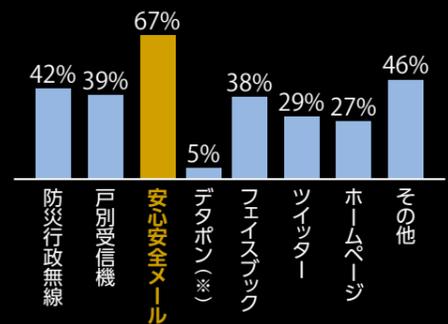


知ることは 防災の第一歩

平成28年の熊本地震で、情報源として最も利用されたのは「安心安全メール」でした。自分や家族を守るには、まず「知ること」が大事です。



▲市民が利用した複数の情報源に対して最も利用頻度が高かった情報源の割合
(平成28年菊池市防災情報に関するアンケート調査より)
※現在、デタボンによる市の情報配信は行っていません

ぜひ、登録ください/ 安心安全メール

防災・防犯情報の他、暮らしの情報、教育、イベント情報なども配信しています。

登録手順

- 1 携帯「メール」画面を開き「新規メール」「新規作成」などを選択。
- 2 「メール作成」画面を開いたら、宛先(TO)に直接「kam@123123.tv」と入力し、空メールを送信。
- 3 10分程度で「菊池安心メールのご登録」というメールが届きますので、メールを開き、文章の下段にあるURL(アドレス)を選択してください。
- 4 「会員登録」画面を開いたら、当てはまる項目にチェックして「登録」を選択します。

【問い合わせ先】 防災交通課 ☎0968(25)7203

アプリもあります!/ きくち防災・行政ナビ

大切な情報を確実に受け取るスマートフォンやタブレット向けのアプリです。防災無線の情報や火災情報、学校からのお知らせも配信しています。



【問い合わせ先】 防災交通課 ☎0968(25)7203

SNSでも配信 /

フェイスブック・ツイッター

- ▶ 公式フェイスブック「癒しの里菊池」
- ▶ 公式ツイッター「@Kikuchi_city」



1_家の裏手から土砂が流れこみ、床上まで浸水した住家。建物の壁についた泥が被害を物語る。2_流木により塞がれた菊池市斑蛇口湖ポート場の入り口。ポート場内にも土砂が入り込み、復旧が急がれる。3_雨が降り続く7月9日、不足する土のうを作る市職員

平時から災害への備えを

市でも7月3日から大雨が続きました。幸い人的被害の報告はなかったものの、市斑蛇口湖ポート場や小木区を中心に被害が出ています。各種手続きに必要な「り災証明(り災届出証明)」の申請は、防災交通課へお尋ねください。平時から大雨を想定した災害への備えを進め、情報収集の手段を確認することが大切です。飲料や食料、着替えなどの避難準備を整え、避難場所を確かめておきましょう。

身近な情報を活用し 日ごろから防災への意識を

今回の豪雨では、今自分が住んでいる場所が安全なのか、近くに危険な場所はないか、不安に思った人も多かったと思います。このようなときに役立つのが「防災マップ」です。防災マップには、土砂災害警戒区域や浸水想定区域などが分かりやすく記載されています。この地図を見て、自分の住んでいる地域ではどのような災害が発生する可能性があるのか、それらの災害から命を守るためにどのように避難するのかを確認してください。

防災マップを活用し、地域や家族で実際の地形を見ておくなど、地域や家族だけの防災マップを作成しておくのも重要です。災害はいつ起こるか分かりません。常に備えを怠らず、最善の行動がとれるように心がけておきましょう。



防災交通課
のちろし
野村浩司危機管理監



市内の全世帯に配布している「菊池市防災マップ」。市のホームページからも見ることができます

7月3日から降り続いた大雨により、県南地域をはじめ、各地で被害が多発しました。自分や家族を守るにはどうすればいいのか。この機会に改めて考えてみませんか。

【問い合わせ先】 防災交通課 ☎0968(25)7203



菊池市の主な被害状況(7月15日現在)

| | | | |
|----------|----|--------|-------|
| 死者・行方不明者 | 0人 | 公共施設被害 | 1カ所 |
| 軽傷者 | 0人 | 道路被害 | 100カ所 |
| 住家床上浸水 | 1棟 | 河川被害 | 2カ所 |
| 住家床下浸水 | 2棟 | 橋梁被害 | なし |
| 未確定 | 1棟 | 土砂崩れ | 49カ所 |

7月13日に撮影した菊池市斑蛇口湖ポート場。場内では流されてきた倒木の撤去作業が進められている

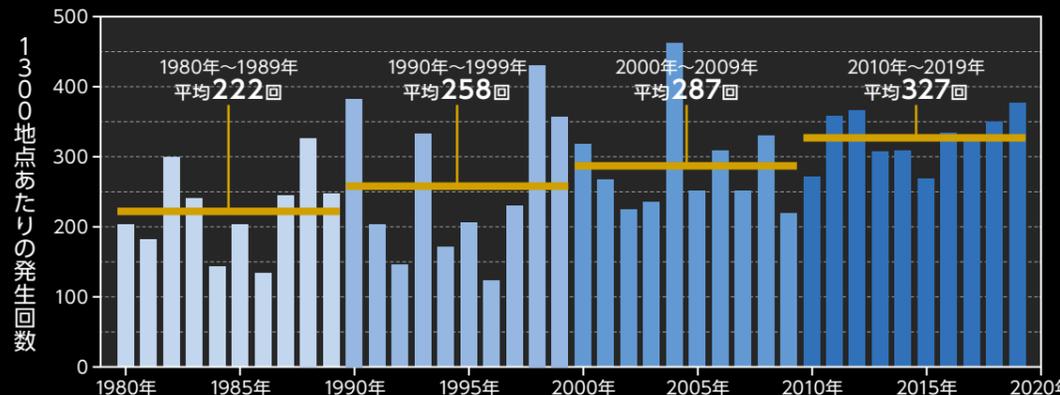
令和2年 7月豪雨

「線状降水帯」に要注意

全国各地で大豪雨被害が多発しています。被害を減らすためには、事前の情報収集が大切です。降水量や河川の水位、避難所などを確認しましょう。

近年、大雨による被害が急増しています。泗水地域が水に浸かった平成24年7月九州北部豪雨、福岡県朝倉市や東峰村などで大きな被害が出た平成29年7月九州北部豪雨、そして令和2年7月豪雨。発達した雨雲が長期間にわたって同じ場所を通過、または停滞することで強い雨が降り続く「線状降水帯」による影響が指摘されています。降水量も年々増加しており、40年前の1980年代に比べると、全国の1時間降水量50mm以上の年間発生数の10年平均回数は100回以上増えています。雨が增えていることを念頭に置き、気象庁や国土交通省のホームページなどで雨雲の予測や降水量、警報や河川の水位情報などをこまめに確認することが重要です。

全国の1時間降水量50mm以上の年間発生回数(1980年~2019年)



出典:気象庁資料より作成